

## 論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 ( 工 学 )	氏名	Mohammad Alkhateeb
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論 文 題 目 Supporting EFL Reading Comprehension by Using of KB-Mapping Method and Analysis of Cognitive Process ( 英文読解支援へのキットビルド概念マップの活用とその認知プロセスの分析 )			
論文審査担当者			
主 査	教 授	平嶋 宗	印
審査委員	教 授	金田 和文	印
審査委員	准教授	林 雄介	印
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文では、英文読解支援に対するキットビルド概念マップの活用とその認知プロセスの分析の結果が述べられている。</p> <p>第1章で、外国語としての英語学習の困難さと、その困難さに対する ICT 活用の一つのアプローチとしてのキットビルド概念マップの適用の可能性、およびその適用の有効性の検証の必要性が述べられている。</p> <p>第2章では、外国語としての英語学習における英文読解に対してこれまでに行われている様々な学習支援の試みを紹介し、この中で、ICT 活用の重要性と、特に概念マップを用いた学習支援の可能性が示されている。さらに、他の手法とキットビルド概念マップを用いた手法の違いを分析している。</p> <p>第3章では、英文読解支援の方法として最も一般的に用いられている選択的下線引き手法を用いた場合と、キットビルド概念マップを用いた場合の比較実験とその結果について報告されている。実験の結果として、それぞれの方法を用いた読解活動を行った直後の理解度テストのスコアにおいては両者の手法の違いは見られなかったが、2週間後に行った遅延テストにおいては有意差が見られたことから、選択的下線引きに対するキットビルド概念マップの優位性が示された。</p> <p>第4章では、ICT を活用したより高度な方法としていくつかの試みが行われているスクラッチビルド概念マップの作成活動を行う場合とキットビルド概念マップの作成を行う場合の比較実験について述べている。結果として、この比較においても直後の理解度テストでは違いは見られなかったが、遅延テストにおいてはキットビルド概念マップを用いた場合に成績が有意に高くなった。このことから、キットビルド概念マップの優位性が示された。</p> <p>第5章では、被験者のマップ作成活動を追跡・比較することで、キットビルド概念マップが有効である理由を調査した。結果として、スクラッチビルド概念マップの場合には、マップの作成が読解対象文章の文の順序に沿って行われていたのに対して、キットビルドにおいては、文の順序とは異なる順序でのマップの作成が行われていた。これは、文章の全体的理解の促進を示唆する結果であり、キットビルド概念マップの有効性の理由づけが行えたといえる。</p> <p>第6章で、これらの一連の研究をまとめ、キットビルド概念マップの活用が英文読解の支援に有効であることを結論付けている。</p> <p>以上、審査の結果、本論文の著者は博士(工学)の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p>			

備考：審査の要旨は、1,500字以内とする。